



# さざんくるす



KINAN HOSPITAL  
OFFICIAL INFORMATION PAPER

March 1st, 2015

vol.39

※ 白浜 円月島

## 肛門ワンダーランド —魔法にかかった外科医だけに見える小宇宙—

人生万事塞翁が馬。この数年を振り返るとそんな気持ちになります。ひょんなことからつながった人たちとの縁が、何か抗いがたい力で私を肛門ワンダーワールドへいざなっていました。

2009年4月の日本外科学会学術集会で、「専門医に学ぶ日常診療」という、いろんなテーマの講義が続くコーナーでありました。私は形成外科の講義を聞こうと会場に向かうと、開始時間を間違えていて、聞かつもりのなかった一つ前の講義が始まりました。「肛門疾患の最新治療—ALTA療法の実実際と病理」、黒川彰夫先生でした。当時の私は、大腸癌手術や化学療法にしか興味がなく、講演を聞き終わっても、自分に肛門手術の知識がないのを棚に上げて、「注射(ALTA)で痔核(イボ痔)が治るわけないやろ!ウソくさ!」とつぶやいていました。その翌週くらいに岸和田で開業医をしている後輩と偶然会うことがあって、このALTAの話をする、「その薬、無茶苦茶効きますよ。先生、絶対講習受けるときはった方がいいですよ。」と強く勧められたのです。こうやって、僕のALTA物語が幕を開けました。

ALTAという注射は、痔核に4段階にわけて薬液を注入すると、投与直後から痔核への血流が遮断されるとともに、薬剤の炎症作用で痔核の組織を硬化させて、痔核の出血や排便時の脱出を治療する方法です。何より、ALTA治療では痛みがありませんので、従来の痔核切除術に比べると、患者さんを痛みなしで痔核の悩みから解放することができます。

ただ、ALTA注射をやっていくうちに、肛門の解剖の難しさを思い知らされていきます。ALTAを始めた半年後、ある肛門の研究會後の懇親会の席で、これも偶然、今の私の師匠である、大阪北通信病院の齋藤徹先生のテーブルでワインを飲んでいました。初対面の先生に、「真面目に20年消化器外科医をやってきましたが、残念ながら肛門のことがまるっきりわかってませんわ。」と、



外科部長

藤田 繁雄

酔った勢いでぶつけてみると、「ほんなら、うちに手術、見に来たらええやん。本なんかなんぼ読んでも、わからへんで。」と言っていたきました。これはチャンス到来!と、機を見るに敏な私(単に図々しいだけ?)は、手術見学の約束を取り付けました。肛門手術だけを年間1000例以上こなしている病院です。行きたびに、目からウロコの新しい発見に満ちた世界に震えました。私にしか見えない、肛門ワンダーランドへの扉がゆっくりと開いていきました。

痔核ひとつとっても、その大きさ、位置、広がりなど、一つとして同じ痔核はありません。癌のように徹底的に切除すると、肛門の狭窄や将来の便漏れの原因になります。術後の出来上りの状態や数十年後のことをイメージして、その場の判断でどこまでやって、どこは手控えるかを決めます。これが毎回あるのですから、こんなに面白い手術はありません。特別な器械もいらず、自分の外科医としての力量だけが頼りという醍醐味は、他にはそうはないと思います。

自分は楽しく手術して、その上、何十年の悩みから解放された患者さんのあふれる笑顔に出会える、これが肛門ワンダーランドなのです。

\*白浜のシンボルとして親しまれている円月島。正式には「高嶋」といい、臨海浦の南海上に浮かぶ南北130m、東西35m、高さ25mの小島ですが、島の中央に円月形海蝕洞がぽっかり開いていることから「円月島」と呼ばれ親しまれています。

円月島に沈む夕陽は「和歌山県の夕日100選」に選ばれており、日の沈む夕景の美しさは格別で、夏は6時30分頃、冬は4時30分頃です。

Southern Cross  
kinan hospital official information paper



研修医  
室谷 知孝

### 人生、出た目勝負 ～回り道ノススメ～

「人間五十年、下天の内をくらぶれば夢幻のごとくなり」とは今は昔、信長の時代に謳われた文句でありまして、いまや人の一生は80年とか、日々の診療の中で90、100歳といった患者さまを見ることは当たり前になってきています。そんな中で、「やれ論文だ」とか、「やれ成績だ」となど、一步でも他人より前に行くこうとする、いわゆる生き急いでいる人が非常に多いように思われてなりません。そんな時代の流れに真っ向から逆らって(笑)、回り道をし今新たに「医師」という道を選びなおしたのが、私ムロタニという人間でございます。皆様もご存じのとおり、私には前職がございまして某〇大学病院他にて放射線技師として勤務しておりました。が、その他にも数々の“前科”がございまして。せかくの機会をいただきましたため、この場をお借りしまして、僕が如何にして紆余曲折、右へ左へ蛇行しながらここ紀南の地へ至ったかを紹介させていただきます。

そもそも私は〇大学放射線技術科学/大学院医学系研究科の出身でございます。そこを選んだ理由というのが、当時盛んに言われておりました放射線治療、つまりメスを使わずに腫瘍を治療するというに興味を持ち、その研究をしたいと思ったということです。奇しくも当時は医学工学連携の推進が政府指導のもとと言われた時代でして、医学か工学かどちらかを選べと言われ答えを出せなかった私にとっては、それらが融合された放射線技術科というものが、まさにうってつけの学科であったわけです。ところが、今でこそIMRTや重粒子線などの新しい技術は少しずつではありますが実用化に向けて日進月歩で進歩しつつありますが、当時それらは全くの机上の空論であり、実用化できる段階ではありませんでした。もう少し腰を据えて研究し続ければ大成したのかもしれませんが、なにぶん飽き性な私はそのような状況を打開することなく、「医学系研究科」という地の利を生かし、かねてよりもう一つ興味があった新規治療薬の開発に携わるようになりました。そのころには一人の研究者として実験・研究・論文執筆に始まり、新薬の申請のため協賛企業に出

向いたり、はたまた霞が関まで呼びつけられたり…と。まさに驢事未だ去らざるに馬事到来すとはこのことかと、次から次へと仕事に追われておりました。ところが当時はそれを苦とは全く思っておらず、むしろ「仕事がある内が花!」などと、幾分“イタイ”人種でありました。今思えば、生き急いでいたのかもしれない。それはさておき、そのような研究活動の中で大きな壁にぶつかりました。といたしますのも、皆さんはよくご存じかとは思いますが、臨床研究などのヒトを対象とした研究は、企業や大学レベルの研究機関などが協力して行われますが、通常は当然のことながら「医師」の主導のもと行われます。とどのつまりが、現状では医師でない臨床研究を企てるのが非常に困難な体制となっております。基礎研究という立場から新薬開発に携わってはありましたが、さらなる研究の場を求めるには、「医師免許」は必須であろうと思うようになりました。最初から医師である先生方にはともすれば実感がないかもしれませんが、医師免許ほど強力な免許は他に類を見ないわけですし、こと研究においてはその威力は絶大なものであります。

そんな折、偶然K大学の学士編入(とは名ばかりで、実情は研究医養成目的での研究員の募集)を目にしました。例年、たしか宝塚歌劇団の入学試験と同じぐらいの競争倍率であるということございまして、おそらく望みは薄いだらうとあまり期待をせずに受験したところ、物の弾みで合格させていただきました(おそらくこれが人生最大のluckyだったと思われそうですが笑)。

そうして長年親しんだ大阪を離れ、神戸での生活が始まりました。ところが、新天地でも引き続き学業の傍らクラブ活動の感覚

で研究は続けていたわけですが、如何せんこの「医学/医道」というものが今までよりもまして魅力的に感じられるようになっていきました。そうして計4年の歳月が流れていく中で、今では研究の「け」の字もどこへやら。ひとまずそれは置いときまして、臨床をしっかり学びたいと思うようになり、紀南病院でお世話いただくこととなりました。

こちらへ来てからは、非常に有意義な時間をすごさせていただいております。僕という非常に扱いにくいであろう人種を本当に熱心にご指導いただき、うれしく思っております。また貴重な出会いや再会も多く、中でも以前していた救急救命士の専門学校での講師時代に縁のあった当時の学生さんが立派に救命士として活躍され患者さんを搬送してきていただいたときには本当にびっくりしました。たくさんの方々を支えられ本当に充実した毎日を送ることができ、皆様には本当に感謝いたしております。

ここまでお読みいただたらおわかり頂けるように、私は糸の切れた凧のようにその時々思い付きで自分がこうと決めたことを周りの目は気にせず実行して参りました。「人生、出た目勝負!」。こんな道の歩き方もありましたというのをご紹介させていただきました。生き急ぐことなかれ。バテる前に回り道してみても…!?

# マフリみちノススメ

## 地域医療連携だより

平成27年2月6日、池田芳樹先生にお受け頂き今回は初めての試みとなるインタビュー形式での対談を行ってきました。

### ――池田整形外科の特徴は？

大学病院や公立病院とは違い開業医としての役割(いわゆる便利屋さん)として時間的に融通をきかせたり、往診に来てほしいと言われれば対応し、困っている人の力になれるように努めている。

### ――池田整形外科は他院と違い朝早くから診察していますが？

開院当初は8時30分から診察していたが8時に診察室にいくと、7時30分から患者さんが並び始めていた。その後患者さんのニーズ合わせ可能な限り早い時間から診療・リハビリを行っている。患者さんからは学校や会社に間に合うという意見が多く患者さんに役立っていると感じている。これから先も自分ができる限りはこの状態を続けていきたい。

### ――地域の皆さんに何か一言はありますか？

元々和歌山市出身で、平成6年に玉置病院に赴任したのがきっかけで、その後平成11年に開業した。当初は不安もあったが、地元の人々に受け入れてもらえ現在は歓迎されている。当院は大学病院や公立病院とは違い難しい手術などはできないが、開業医として役立てるよう田辺市の人々に恩を返したいと考えている。

### ――今現在患者さんも多く身近な医院となっているのではないですか？

開院当初は近くの明洋中学の生徒が患者の大半を占めていたが、徐々に患者さんも増え現在に至っている。身近な開業医と感じてもらえるように努め、普通の町医者としてできる範囲で地域の皆さんに役立てるよう努めていきたいと考えている。



池田整形外科  
池田 芳樹

## ほんとうに五十肩？

はじめに。

厚生労働省の「国民生活基礎調査の概況」によると、自覚症状毎の人口千人あたりの割合は、「腰痛」、「肩こり」、「手足の関節が痛む」などの愁訴が圧倒的に多く、整形外科領域の疾病に対するニーズの多さがうかがわれます。一口に整形外科と言ってもその内容は多岐にわたりますが、当科では外傷のほか、脊椎外科および関節外科(肩関節・股関節・膝関節etc.)にたくに力を入れており、これらを中心として地域の皆様のニーズにお応えできるよう努めて参りたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

さて、本題に移りますが、「肩の痛み」は整形外科の中でも非常に多い愁訴の1つであり、「前から肩が痛かったけど、五十肩と思って放置していたら余計にひどくなった」とか、「動かさなかったら固まると思い、しっかり動かしていたが、夜も眠れないほど痛くなった」などはしばしば耳にするフレーズかと思えます。

肩関節の痛みには安静時痛・夜間痛と運動時痛があり、大ざっぱに言うと、安静時痛・夜間痛は炎症が関与した痛み、運動時痛は肩のスムーズな運動ができないために生じる痛みと考えられます。炎症による痛みが強い時期には局所の安静とNSAIDsや貼布薬、ヒアルロン酸や局麻薬(+ステロイド)の注射など、また、安静時痛・夜間痛が軽減すれば、疼痛に応じた運動療法など、段階に応じた治療を行います。

我々がよく耳にするいわゆる「五十肩」も、上記治療戦略に従って治療していきます。「五十肩」とは、50歳代を中心とした中年以降に、肩関節周囲組織の退行性変化を基盤として明らかな原因なしに発症し、肩関節の痛みと運動障害を認める疾患群と定義されています。その病期は、運動時痛に加えて安静時痛・夜間痛が出現する「急性期」、痛みは軽減するが可動域制限が残る「慢性期」、徐々に可動域が改善する「回復期」に分けられます。



整形外科  
三宅 悠介

最終的に可動域制限が残存することもあります。多くは6ヵ月から1年程度で改善すると言われております。しかし、五十肩と思われている中にも異なる疾患が紛れ込んでいることがあり、治療が遅れることも少なくありません。その代表疾患が腱板断裂です。

腱板は上腕骨の骨頭を覆っている、肩のスムーズな運動に欠かせない筋肉です。腱板断裂も中年以降に好発し、運動時痛だけでなく、時に安静時痛・夜間痛も引き起こします。「挙げた手をおろす途中で痛む」、「背中に手を回すと痛い」、「力が入らず物が持ち上げられない」など、腱板断裂を疑う症状はありますが、腱板断裂に特異的な症状はありません。無症候性の腱板断裂も多く、手術に至る症例はごく一部ではありますが、手術を行うにはタイミングが重要になります。腱板断裂は長期間放置すると、断裂サイズが拡大して脂肪変性や筋萎縮を起こしたり、変形性関節症に至ることも少なくありません。筋萎縮が少ない方が、手術を行った場合の再断裂率は低く、術後機能も優れていることがわかっていますが、筋萎縮が高度になると再断裂率は高くなり、痛みが残ったり筋力が改善しなかったりと、満足した結果は得られず手術の適応自体がなくなってしまうこともあります。ですから、腱板断裂のある方に対しては、適切な時期に適切な治療を行い手術のタイミングを逃さないことが大切と考えております。当科では、関節鏡による腱板縫合を中心とした肩関節手術も行っておりますので、お困りの方がおられましたら、当院整形外科の受診を検討していただけたら幸いです。

# 病院のまど

## 第51回市民健康講座

自分が不整脈かどうかを知るには、ふだんから脈を測る習慣をつけることが基本です。脈拍の取り方から診方を知っておく事で不整脈の診断に役立つことができます。この講座でご自分の脈拍の取り方と不整脈について学びましょう。

日時 平成27年3月15日(日)  
午後2:00~3:00

演題 脈の日(3月9日)にちなんで  
脈の診方から最新の不整脈治療まで

演者 木村 桂三(紀南病院循環器科部長)

会場 紀南病院 3階講堂

## 編集後記

「地球温暖化の影響、今年は暖冬です。」と年末に予報していましたが、寒い日が多かったと感じています。

立春が過ぎ季節はもうすぐ春、卒業・旅立ち、職場でも別れと出会いの季節です。淋しい気持ちと出会いへの期待、毎年複雑な気持ちになる時期です。

我が家の窓から見える梅の枝には可愛い白い花がチラホラ、差し込む日差しは柔らかく愛猫が目を細めひなたぼっこしています。もうすぐ春です。

たまとら



## daikoku 株式会社 大黒

本社：〒640-8525 和歌山県和歌山市手平 3-8-43

和歌山事業所	：〒641-0012 和歌山市紀三井寺855-71
紀三井寺事業所	：〒641-0014 和歌山市毛見 1111-1
大阪支店	：〒550-0002 大阪市西区江戸堀 3-5-27
南大阪支店	：〒594-0031 和泉市伏屋町2-16-11
紀南支店	：〒646-0011 田辺市新庄町3778-2
神戸支店	：〒650-0023 神戸市中央区栄町通5-2-6
奈良支店	：〒630-8115 奈良市大宮町4-295-10 奈良朝日生命川口ビル 1F
関西空港営業所	：〒590-0523 泉南市信達岡中919-1
新宮営業所	：〒647-0052 新宮市橋本 2-5-61
東京麹町オフィス	：〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-2 BUREX 麹町 301号
京都丸太町オフィス	：〒606-8395 京都市左京区丸太町通川端東入 東丸太町32-3 上田ビル 3F

DAIKOKU MEDICAL SUPPLY

保健・医療・福祉の分野で、

「生命を守る人の環境づくり」を通じて

地域の発展に貢献することが

私達の使命です。

 **SEIKO MEDICAL**  
医療の先へ。セイコーメディカル株式会社

■本 社 〒640-8287 和歌山県和歌山市築港6丁目9番地の10 TEL. 073-435-2333 FAX. 073-435-2223	■田辺営業所 〒646-0011 田辺市新庄町 2744 番地 TEL. 0739-25-4535 FAX. 0739-25-4578
■大阪支店 〒595-0012 泉大津市北畠中町2丁目5番28号 TEL. 0725-31-3610 FAX. 0725-31-3619	■新宮営業所 〒647-0072 新宮市 峰伏 20 番 22 号 TEL. 0735-31-9130 FAX. 0735-31-9133
■阪大前営業分室 〒641-0012 和歌山県紀三井寺 768 番地の 13 TEL. 073-448-3787 FAX. 073-448-3781	■奈良営業所 〒832-0082 天理市 荒崎町 56 番地の 4 TEL. 0743-64-3607 FAX. 0743-64-4810